教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

令和５年２月２８日
第５３９号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

こんにちは　と　ありがとう

先日、本園のＰＴＡ会長 宇崎様に講師をお引き受けいただき、『いろいろな国の言葉で遊ぼう』という会を行いました。子どもたちは、様々な国の「こんにちは」や「ありがとう」という言葉を教えていただき、挨拶を交わしたり、クイズやダンスをしたりして楽しみました。世界中のどの言語でも、最初に覚えたいのは挨拶の言葉だと思います。挨拶は、世界共通のコミュニケーションの基本です。そのような「挨拶」について、このところ心に残る場面がいくつか続きましたのでご紹介します。

未就園児の会があったある日のこと。１歳のお子さんを連れて初めて来園された保護者の方がお子さんを抱いて立っていると、そばを通りかかった園児たちが「こんにちは」と次々と元気よく挨拶をしていきました。その様子に、保護者の方は「子どもたちがみんな自然に挨拶をしていって、すばらしいですね。うれしくなります。」と感激した様子で私に声を掛けてくださいました。

またつい先日、お茶会の講師でいらしてくださった先生が、会を終えてお帰りになるところに通りかかった園児たちも、口々に「ありがとうございました」と自分から挨拶をしていき、先生からも「みんなしっかりとご挨拶ができて、えらいですね」とお褒めの言葉をいただきました。

そして、クッキングデーの食材を買いに子どもたちと商店街に出かけたり、清水坂公園へお別れ遠足に行ったりした際には、町の方とすれ違うたびに子どもたちから自然と「こんにちは」という挨拶が聞かれます。以前、町会の皆様と町清掃をしたときに、町会長様から、ごみを拾うときには町の人に挨拶もしましょうと教えていただき、本園では、園外保育で地域を歩く際には、教師がモデルを示しながら、いつも町の方に挨拶をしています。その積み重ねで、今では園外を歩くときには、教師よりも先に子どもたちの方から挨拶の声が聞こえてくるほどになりました。町の方も微笑みながら挨拶を返してくださいます。

挨拶の習慣は一朝一夕には身に付きません。また、挨拶の習慣を身に付けるためには、周囲の大人が明るい挨拶を交わす姿を手本として日々示していくことが大切です。毎日の積み重ねを通して気持ちのよい挨拶ができるようになった子どもは、人とつながり心を通わせるうれしさを味わうことができます。

３月、園庭の遅咲きの梅も満開になりました。それぞれの次のステップに向けて、別れと出会いの季節です。これから先、子どもたちが迎えるたくさんの出会いの中で、気持ちのよい挨拶をきっかけにして人とつながる喜びをさらに重ね、心通う豊かな人間関係を築いてほしいと願っています。

最後になりますが、私も心を込めてご挨拶をさせていただきます。保護者、地域の皆様には、今年度も本園の教育活動に温かなご理解と惜しみないご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞
- 自分なりのめあてをもって遊ぶ中で、自分の思いや考えを言葉で伝えたり、友達の言葉を聞いたりしながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 学級全体の活動に進んで取り組み、楽しさや満足感を味わう中で、進級への期待感をもつ。

＜さくら組＞
- 幼稚園生活を振り返り、自分の成長を喜ぶとともに小学生になることに期待感をもつ。
- 園生活や遊びに主体的に取り組み、学級の友達と互いの良さを認め合いながら、自信と自覚をもって行動する。